

## 「四季・植物」 4 千振

学名 Swertia japonica. Makino

リンドウ科の二年草

全草がとても苦く、湯の中で千回振り出しても  
なお苦いので、千振といわれる

### 郷土資料から見た千振せんぶりのあれこれ

「あまりにも有名な日本の民間薬である。昔からどれほど多くの人々が活用したことであろうか」（「柏崎の植物」）とあるように、胃腸の薬として知られる千振だが、別名を「当薬」といい、この名は病によく当たる薬という意味である。

柏崎の方言では千振を「しばとうき」または「にがとう」と言った。植物名の方言は、人の暮らしと密接な関係を持っていた証明であるという。

昔から柏崎に伝わる利用法は「夏土用の頃採取する。乾燥した三、四本のセンブリを、熱湯の入った茶碗に入れ、掻きまわして苦みのある湯を飲む」（「柏崎市史資料集 民俗篇」）というものであり、胃痛・食あたり・食べ過ぎに効果があるという。北条の鷹の巣では、腹の具合が悪いときも飲むとよいといわれていた。

開花期の全草を根ごと引き抜いて薬とし、「千振引く」は秋の季語となっている。

薬草としてよく知られているため、種子を残していない花の段階で根ごと採取されてしまい、少なくなりつつある植物である。

#### 参考資料

「草木花歳時記 秋」	朝日新聞社発行	1998	「柏崎の植物」	柏崎市教育委員会編	1981
「図説花と樹の大辞典」	植物文化研究会・雅麗編	1996	「柏崎市史資料集 民俗篇」	柏崎市史編さん委員会編	1986
「薬草」	平野隆久著	2000	「日本大百科全書」	小学館発行	1994